

ダム整備促進特集

超難関 信頼性高いCME D



ダム工事総括管理技術者(CME D)会 会長 大内 斉氏 (鹿島土木管理本部統括技師長兼土木工務部ダムグループ長)

INTERVIEW

「ダムを建設する施工者側に必要な資格ですが、ついつい面倒です。CME D認定試験は難しい試験はないと思います。受験資格を得るには、ダム工事現場を10年以上またはダム現場での7年以上を含む土木工事現場15年以上という実務経験が必要です。一次試験は四肢択一式の筆記と小論文で、その出題範囲はダムの構造設計、施工計画、施工技術、積算、河川法や労働基準法、環境公害対策といった各種法規制など広範に及びます。これをクリアすると二次試験に進みますが、コンクリートダムとロックフィルダムそれぞれについての施工計画に関する論文試験が2日間行われます。その後、有識者が審査員となって面接試験が論文内容に基づいて行われ、合格となります。合格率は3割程度です。この資格を持つと、ダム工事の配置技術者にはなれませんが、非常に信頼性の高い資格だと思えます。」

「1982年に制度が始まり、これまでの33年間で783人(11月1日現在)が認定されています。その後、退職された方もいますが、現在では545人が活躍しています。一度認定されればよいというのではなく、5年ごとの更新講習を受けなければなりません。あらかじめ講習を受ける必要がありますが、ダム工事は土木工事におけるほとんどの工種が関わる大規模な工事となります。その現場も、地形や地質、自然環境などそれぞれ条件が異なる上、大雨や強風、降雪といった悪い気象条件のもとで施工しなければなりません。時には豪雪や台風、異常出水に遭遇することもあります。基礎岩盤の性状や現場で採取する材料の品質も一定ではありません。CME Dには、これを乗り越え適切に対処する能力が必要といわれています。」

「国内ではダムの整備が進んだ結果、新規プロジェクトは減っています。新規の場合は合意形成に時間がかかりますが、再開発の場合は短期間で着手できます。機能を増強させる再開発事業が今後、増えると思

若年層周知に ステータス向上へ

「CME D会としての活動にはどういったものがありますか。」

「ダムの施工は共同企業体が多く、工期も一般的に長いので、他社の職員でも仲間意識は生まれますし、同じ認定試験に合格したものと士気という点で、会社の垣根を越えた交流も盛んに行われています。CME D会として活動すると、企業単独では難しい発注者側との定期的な意見交換が可能です。積算や設計変更など入札契約における問題点の改善の申し入れもできますし、実際に現場で受け入れてもらっています。現業内では解決できないような問題が生じたとき、各現場が孤立しないように、CME D会が問題点を吸い上げ、会全体としてフォローする活動も行っています。」

「新規案件が少ないなどダム建設市場における問題点をどう考えますか。」

「国内ではダムの整備が進んだ結果、新規プロジェクトは減っています。新規の場合は合意形成に時間がかかりますが、再開発の場合は短期間で着手できます。機能を増強させる再開発事業が今後、増えると思



佐久間ダム 河川:天竜川 完成:1956年 形式:重力式コンクリートダム 堤高:155.2m 堤頂長:2935.5m 総貯水量:3億2685m³ 水力発電を主目的に建設され、現在、洪水調節目的を付加する再開発が進む。

一般財団法人日本ダム協会 会長 宮本 洋一

このたびダム建設功績者表彰を受賞されました皆様にお心よりお祝いを申し上げます。ダム建設功績者表彰は、ダム事業に長年にわたって携わり、ダム建設の用地問題の円滑解決などにご尽力を頂いた方々や、工事の安全・改善などにご努力された方々、ダム周辺整備や環境美化活動並びに上下流交流にご功績のあった団体、工事の現場専門分野でご努力された方々を表彰し、そのご功績をたたえらるとともに、ダムなどの建設事業の推進に寄与することを目的とするものです。

尊い努力がダム事業の礎築く

1981年度に創設されて、35回目を迎える今年も、36の方々と団体を表彰させていただきましたことになりました。日本のダム事業の礎は皆様方の尊いご努力により築かれて参りました。ここに厚く感謝を申し上げます。さて、最近では本体工事に着手するダムも増えて多少の明るさが見えるようになりまして。今後は、既存ダムを有効活用したダム再開発技術の向上や、CSGなどの新技術の開発、さらには海外進出といった新たな分野への展開も必要になると考えられます。皆様のご功績が、今後のダム事業に生かされますように活動してまいり所存でありますので、引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に、皆様の今後ますますのご発展とご健勝を心から祈念いたしまして、私のお祝いの言葉と致します。

第35回 ダム建設功績者

第35回ダム建設功績者表彰式が20日、都内のホテルで開催される。国土交通省の指導を得て、各地方整備局や自治体、施工会社の協力のもと、表彰選考委員会で決定した36の個人や団体が表彰される。同表彰は、ダム建設の促進に貢献した個人・団体に感謝の意を表すため、日本ダム協会が1981年に創設した表彰制度で、以降毎年開催。ダム周辺環境保全整備に著しい功績のあった場合や、工事施工に著しい功績のあった場合などに団体などの推薦を経て選考している。

功績表彰 (用地関係) Table with columns: 氏名, 現職, 表彰理由

功績表彰 (工事関係) Table with columns: 氏名, 現職, 表彰理由

功績表彰 (環境関係) Table with columns: 個人・団体, ダム名/ダムとの関係, 表彰理由

功績表彰 (上下流交流関係) Table with columns: 個人・団体, ダム名/ダムとの関係, 表彰理由

功績表彰 (専門分野関係) Table with columns: 個人・団体, 現職, 表彰理由

Logos and names of member companies: 日本国土開発株式会社, 青木あすなる建設, 株式会社竹中土木, 大豊建設株式会社, 株式会社奥村組, 株式会社鴻池組, 三井住友建設株式会社, 五洋建設株式会社, 西松建設株式会社, 飛鳥建設株式会社, 鉄建, 佐藤工業株式会社, 熊谷組, 安藤ハザマ